

大津島データ 150世帯  
人口 203人 男 83人 女 120人  
高齢化率 79.8%  
(令和4年3月31日現在)



# 潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



## 新メニューが出たぞ！

島民の皆様こんにちは、島食堂ひなたです。3月まで冬季休業をいただいておりますが、3月26日(土)より営業を再開いたしました。これまでの定番メニュー、すだいでいシャムを隠し味に使用した「ひなたカレー」や「ぶっかけうどん」に加え、冬季休業中に開発を進めた新メニュー「アジフライバーガー」と「季節のチーズケーキ」、そしてあのCoffee boy(コーヒーボーイ)さんにオリジナルで作っていただいた「大津島ブレンドコーヒー」ひなた」を新たに用意しています。

## 島食堂 ひなた



島で一番陽が当たる場所にあることから「ひなた」と名付けられた島食堂は、今年で4年目を迎えます。来島者の方々のみならず、島民の皆様にとってもあたたかく居心地の良い場所となればと願っております。営業日は土日祝の10時30分～14時です。是非お誘い合わせの上、皆様で御来店いただければ幸いです。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

文川一般社団法人 轟ノ島



## 芝桜満開

石田幸敏・久子さんご夫妻の敷地にて写真撮影させていただきました。  
4月13日撮影 (刈尾地区)

## これからよろしくお預けします



念願が叶い、2年ぶりに大津島に帰って参りました。懐かしい大津島の皆様に再びお会いすることができて大変うれしいです。4月から金融事業の取扱い時間が短くなり、大変ご不便をお掛け致しますが、微力ながら皆様の為に力を尽くす所存です。よろしくお願いいたします。

JA山口県 大津島店・馬島店 戸倉 充博



4月から大津島老人デイサービスセンターに勤務となりました。デイサービスの勤務は初めてですが、利用者さんに「今日も来て良かった」と言っていただける様、お世話させていただき、また、地域の方々とも、交流を深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大津島老人デイサービスセンター 浅田 律子



4月から回天記念館に勤務することとなりました。平成29年度の1年間大津島支所に勤務していましたが、4年ぶりの大津島勤務です。支所にいる間は、回天の事はよく知りませんでしたが、これからは仕事をしながら勉強していこうと思っております。大津島の皆さん、よろしくお願いいたします。

回天記念館 佐伯 良光

## お世話になりました

大津島の皆さん2年間いろいろとお世話になりました。戸倉さんがまた戻って来ますので今後とも、大津島店、馬島店をよろしくお願いいたします。元気で長生きして下さい。

JA山口県 大津島店・馬島店前勤務  
安達 寿則

平成28年に大津島デイサービスセンターに看護師として勤務し6年、長いようで短い日々でした。台風での巡航の欠航、崖崩れなど離島での生活がどれほど大変なものか、少しですが感じられデイサービスでは【笑って明るく楽しく】をモットーに頑張りました。皆さんにいただいた四季折々の野菜、果実を堪能し身も心も豊かになった気がいたします。高齢化率が格段に高い大津島ですが、皆さんのバイタリティーには高齢という言葉も吹き飛ばす気がします。皆さんを見習って私も頑張ろうと思っております。本当にありがとうございました。元気をいただき退職いたします。

周南市大津島老人デイサービスセンター前勤務  
田中 淳子

## すだいでいプロジェクト 2021



3月11日～13日の日程で、拓殖大学と徳山大学の学生が来島しました。彼らは、山口県庁が実施している「山口つなぐる案内所」の企画の一環である「すだいでいプロジェクト2021」を体験するためにやってきました。今回は、拓殖大学学生1名、OBが2名、一般が2名、徳山大学から2名が参加しました。OBの一人は、通算8回目の来島でした。卒業しても島と関わっていかうという気持ちで、とても嬉しいことです。今回もコロナ禍での実施となったため、2週間前からの検温、出発前の抗体検査を行い、感染症対策を行いました。滞在中は、松本千恵子さんの紙芝居、すだいでい畑の追肥作業、石田美代子さんの籠づくり体験などを行いました。今回、はじめての取り組みだった「美代子の籠づくり体験」では、東京会場とインターネットでテレビ電話をつなぎ、島と東京で同時開催を試みました。不器用な学生、器用な学生、進捗具合は様々でした。籠づくりはとても難しく、時間内で終わることが出来ず、完成は次回への持ち越しとなりました。実際に自分で作ってみると、光藤士郎さんや美代子さんのきめ細やかさと技術の高さを痛感し、修行の必要性を感じました。今後も離島活性化事業部では、各大学との連携を深めていきたいと思っております。

文川大津島巡航 大友 翔太



少し前の話ですが、2月11日〜13日にイベント用にテントの貸出と設営を致しました。

光満寺の冷泉さんからお話を頂き、山口市の本願寺山口別院で行われた、寺小屋イベント「スクール・ナーランダ」の食事もご利用頂きました。



このイベントは仏教の他、様々な知識の学びを10〜20代の若者向けに伝えると言う趣旨で、同日は大変な盛り上がりを見せておりました。(開催時風景は割愛させて頂きます。)

(島出身の若手(冷泉さん)が外で活躍する姿はとても素晴らしい事ですね!)

ちなみに、2基の大型テント(約50kg)を1人で設置したのですが、ほぼほぼ初めての設営の為、途中テント内で出口が分からなくなり窒息死しそうに何度もなりました。寺で絶命するのは事件物なので何とか生き延びましたが…



文川内山剛

文川野田康志

### 若潮の会通信 No.44

長いコロナ禍で4月3日の桜まつりも中止になりましたが、2日土曜日に仲間数名で大津島を訪ねました。大津島への帰島は昨年の若潮の会の芋掘り以来です。今年はずいぶん4月初の土日が桜の見頃というところで、まさに大津島公園の桜は本当にみごとでした。やっぱり、自慢の桜ですね。桜まつりが中止にならないければ、晴天にも恵まれ盛会だったと思うと、本当に残念です。

当日は、防府市野島海運の観光船や巡航船で来島される観光客の方も結構おられて、大津島の桜を満喫されていました。早くパンデミックが収束して、多くの方々に大津島のすてきなおところを見ただきたいものです。



私自身、3年振りに見た大津島の桜は非常に感慨深く、これからも大津島の魅力をたくさんの方々に届けることができれば、若潮の会の活動もたくさんできるように、改めてコロナの収束を祈ったすてきな1日になりました。

### ◆大津島さくら祭及び須金・大津島地区交流会の開催中止について

令和4年4月3日(日)、大津島ふれあいセンターにて「大津島さくら祭」及び「須金・大津島地区交流会」の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。

### お知らせ

【次回潮流発行予定日】  
7月1日 第286号

### 大津島地区社会福祉協議会からのお願い

善意銀行への寄付にご協力ください

移動図書館 やまびこ号ジュニア  
5月17日(火)、6月18日(土)  
馬島11:30~ 刈尾12:20~

※令和4年6月に北部球技大会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。

【編集後記】  
現在は、何もかも物価が上がっていき生活が困っていきそうな世の中です。4月上旬、天気が良かったせいか大津島全域でそのような出来事をどこかへ忘れさせるような桜の見どころ満載でした。  
文責：原田 和保

## 島の道

島に春が来て、山桜が咲きソメイヨシノが咲き、美しく彩られた山を見上げながら、島を網の目のように繋いでいた細い道を思ふ。

まず、ソメイヨシノが満開の一番目のお大師様の上を行く道。少し上ると天狗松が聳(そび)えている。足元に何番目かのお大師様の祠、そこを過ぎて森の中の落ち葉が厚く積もった窪道に行く。ひと足早く咲いていた山桜が、頭上遥かから雪のように花びらを散らす道。この森には二箇所にお大師様。森を抜ける、少し開けて左右に段々畑。同級生の畑や余り口をきいた事もないバー様の畑の間の道を尚も登ると、我が家の畑、島の天辺の畑に着く。親達が忙しく芋掘りをしている横で、畑の境目にあるイシヤシヤキ柴の枝に座って、プンプン揺れながら『船の上ー』とか『ピアノ』とか、その辺りにいる同い年の子達と飽きもせず遊んだ道。その道はあちこちに枝分かれしていて、真っ直ぐ集落に戻れる道、尚も少し登って我が家の木山に届く道、反対側に降ると柳ヶ浦まで届く道。



文川松本 千恵子

下の方の柳ヶ浦に行く知り合いに山の上から『おーい』と声をかけて、何処から聞こえる声か分からず、キョロキョロと辺りを見回す姿を見て、山の上で大笑いした。

男の子達はこの天辺の畑から、段々畑をどどん跳びおりに瞬間に家のある集落まで下る遊びに飽きる事なく興じていたものだ。

その天辺からまだ道なりに下ると黒矢様に出る。眼下は山姥が居たと伝わる洲島。春は蕨やせんまいを採りながら歩き、二季のお大師様巡り、節句にレンゲ畑を求めて歩き、島の道には子供の私がそこ此処にいる。もちろん麦を担ぎ芋を担ぎ、こったスクドを担ぐぎばった私もそこにはあるんだけれど。そんな道も今はどこまで辿れるんだらう。足腰の弱った我が身と猪と過疎とのトリプルパンチの島の道。

毎年、冬になったら家族で登って見ようと言いながら、今年も出来ぬまま春も過ぎぬ。

### 徳山周録

### 32 福川まぐわった採石場の作業音と黒髪の話

文川大津島巡航 三崎 英和

私が通った福川小学校は、福川地区北側の山の裾野にあるため、2階以上の教室からは福川の街はもちろん、海を挟んで正面に黒髪島を、その横には大津島も眺めることができました。そんなある日、授業の休憩時間に「ボン」という音が聞こえたので、窓の外を見たのですが、街には何ら変わった様子は見られませんでした。

何日か経ったある日、再び同じ音がしたので、窓から遠方まで見渡したところ、黒髪島の採石場付近に白い煙が見え、その時、「あ！これは採石場で使われている発破の音なんだ」と初めて気づいたのでした。

ところで、大津島によく釣りに行ってた頃、巡航船は黒髪島にも泊まっていたのですが、そこでよく下船されていたのは、片手に荷物を持ち採石場に通われる女性の方で、たまに、あと1〜2人くらい別にお客さんが降りられていたような記憶がある。



イラスト 三崎 英和